

アーバンスポーツの普及・振興について調査結果

これまでの調査経過

調査の背景

函館市スポーツ推進計画は、市民の誰もがスポーツにアクセスしやすく、自分に合った運動・スポーツに出会う環境づくりに努めることを基本的な考え方として、令和5年3月に改訂され、アーバンスポーツを含む各種スポーツの振興が明記された。

調査のポイントの整理

- ① 市民へのアーバンスポーツの認知度向上の取り組みや競技大会等の誘致に対する考え方
- ② 市民や関係団体とどのように協議して普及・振興に向けて取り組んでいくのか
- ③ 選手の育成、安全指導、競技者のマナー向上のための取り組みとしてできることは何か

函館アーバンスポーツ協会との懇談会の開催

- ・本市の現状・課題・問題点の把握・共有
- ・課題解決に向けた取り組みの方向性について意見交換

他都市の状況調査・施設の現地調査

- ・静岡県静岡市・東静岡アート&スポーツ／ヒロバ
- ・茨城県笠間市・ムラサキパークかさま
- ・神奈川県横須賀市・うみかぜ公園

総務常任委員会所管事務調査 手交式提出資料R6.3.14
新市政クラブ 出村 ゆかり

これまでの調査のまとめ

調査のポイント（再掲）

- ①市民へのアーバンスポーツの認知度向上の取り組みや競技大会等の誘致に対する考え方
- ②市民や関係団体とどのように協議して普及・振興に向けて取り組んでいくのか
- ③選手の育成、安全指導、競技者のマナー向上のための取り組みとしてできることは何か

本市の現状

- ・令和4年8月のアーバンスポーツイベントでは、若年層を中心に来場があり若者にとって興味があるスポーツであることが確認できている。
- ・関係団体として、函館アーバンスポーツ協会が令和4年12月に設立された。
- ・10年前に比べると全国的にも認知度は上がってきているが、それがようやく北海道や函館を含めた道南に広がってきたところで、まだ認知度は低い。
- ・各アーバンスポーツにおいて指導者がいる。
- ・競技するための環境は十分ではなく、愛好者は練習できる場所（遠隔地を含め）を探して通っている。
- ・民間施設があり、そこで民間事業者主催の小さい規模の大会は行われてきている。
- ・函館はアーバンスポーツをする上で自然資源が豊富である。

見えてきた課題

- ・市民のニーズや競技人口の全容が把握できていない。
- ・函館アーバンスポーツ協会は設立されたばかりであり、手探りでの普及・振興活動を行っているが、それだけではなかなか広がっていかない。
- ・練習環境や指導者の有無、やり方・始め方が分からないといった理由で競技人口が思うように増えていかない。
- ・愛好者と市民との間でアーバンスポーツに対するイメージや温度差が非常に大きい。
- ・競技人口が増えていった際には、選手育成の考え方や指導者を増やすことも必要である。
- ・大きな大会が開催できるような環境にはない。

他都市での取り組み

○静岡市

- ・ 駅前にイベントが開催できる広場も含めて、全国大会が開催可能な施設を整備したことで、愛好者が全国から来訪しやすい環境になっていることや、興味・関心がない市民も含めイベント等で訪れた際に目にすることで、認知度向上につながっている。
- ・ 過去に市のクライミング場で起きた事故を受け、市の事業としてクライミング教室での安全指導を行っているほか、施設利用時の制限を設ける等、各施設での利用においては安全上ルール等を定めている。

○笠間市

- ・ 行政・関係団体から成るスポーツコミッションを設立し、市民向けの体験会等のイベント開催や大会誘致を行い、県知事杯などの定期開催にも取り組んでいる。
- ・ 施設の設計段階から指定管理候補者が専門家として関わっており、現在は施設の管理運営だけでなく、スクールの定期開催を行っている。
- ・ 施設は、誰もが楽しめることや、競技を「見る」視点に立って整備され、整備期間中には市民向けにシンポジウム開催や施設見学会を実施した。

○横須賀市

- ・ 市長部局にアーバンスポーツ推進専門の部門をつくり普及・振興に取り組んでいる。
- ・ 全日本フリースタイルBMX連盟との連携協定により大会を誘致し、市においては大会の告知・周知の部分を担当することで来場者増につなげたほか、BMX連盟による学校訪問や既存イベント等での体験会を協力して開催している。
- ・ 若者達と市が話し合って施設を設計したことや、全国からスケートボードを目的に訪れる若者が多いこと、アメリカ文化が根付いているなどの背景や地域特性を受けて、アメリカ発祥のBMXを中心に普及・振興を進めている。
- ・ うみかぜ公園のスケートパークは使用料が無料で、もともとは初心者から中級者向けの施設しかなかったが、BMX連盟から設備の無償貸与を受け、上級者も日常的に練習できる環境が整っている。

まとめ

- ・ アーバンスポーツの普及・振興の方向性を定める上で、まず市民ニーズや競技人口の把握が不可欠で、その上で市民に知ってもらうさまざまな機会を増やすことが重要。
- ・ より多くの市民に知ってもらうことで、愛好者とのイメージや温度差は小さくなり、市民のアーバンスポーツに対する理解が深まるのではないかと。
- ・ 普及・振興にあたっては、官民が連携して大会誘致等に取り組むことが重要。
- ・ アーバンスポーツ協会を通じて、地元選手や愛好者の声を聞きながら、練習環境や指導を受ける環境を整えていくことにより、競技の入り口が広がり競技人口増が期待できるほか、選手の育成や競技者のマナー向上にもつながるのではないかと。

アーバンスポーツの普及・振興に向けた取組みの方向性

【前提】

- 市民の潜在的なニーズ調査や競技人口の把握に努める。
- アーバンスポーツ協会をはじめとした関係団体や庁内関係部局と十分に連携する。

ソフト面・ハード面の双方から普及・振興に努めてほしい。

- ・既存イベント等においてアーバンスポーツの体験会を設けるほか、大会の誘致・開催など市民がみる機会、する機会を確保し、市民への普及・振興活動に取り組む。
- ・スピード感を持ってアーバンスポーツの環境づくりを推進する。
(廃校となった校舎など既存施設の活用、サーフエリア近くへのシャワー設備の整備等、今取り組んでいる人たちの負担を減らすような支援を行う。)
- ・自然資源という地域特性を生かしたアーバンスポーツの推進の中で、市長部局と協力しながら観光やまちづくりを進める。
- ・キャリア教育を含めた学校訪問や、体験会など子供たちを含めた市民の誰もが実際にアーバンスポーツに触れる機会の確保をすることで選択肢を広げ、自分に適したスポーツを選ぶことができるようにする。
- ・部活動の地域移行とも一体となって遊びからスポーツへとつなげる。
- ・施設整備に向けて規模・立地について協議する。

【目指す姿】 = 函館市スポーツ推進計画の考え方

アーバンスポーツを誰もが楽しめるまちに

～世代を超えて様々な人が「する（競技者・市民等）」、「みる（観客・市民等）」、「ささえる（指導者・保護者等）」という様々な視点から楽しめるように～